

川合貞吉 かわいひさし 評論家。明治二十四年九月十八日岐阜縣生れ、昭和五十六年七月三十一日没（一九二一—八二）。大正十四年明治大學卒。日本新聞社を経て昭和二年渡支、中國共產黨に入黨。五年上海週報社に入り、田中忠夫等と社會主義研究會を興す。翌年リヒャルト・ゾルゲ、ヤグネス・スマドレー、尾崎秀實等を知り、コミンテルンの活動に参加。十六年ゾルゲ事件に連坐して下獄。二十年十月釋放後は文筆生活に入る。

著書『支那の民族性と社會』（昭和十一年十一月十一日第一編）二國民會出版部）、『あゝ革命家の回想』（昭和二十八年十一月十日日本出版協同株式会社）、『女将—自由の嵐に立つ女』（昭和二十三年五月十五日現代社）、『遙かなる青年の日々—私の半生記』（昭和五十四年二月十五日谷沢書房）等。

